

北海道師範塾  
「教師の道」

# 塾頭通信

第428号 平成24年11月5日

## 文化の日

11月3日は、「文化の日」です。11月3日という日は、1946年（昭和21年）に日本国憲法が公布された日ですが、この日本国憲法は平和と文化を重視していることを踏まえ、この日を「文化の日」としたとされています。

なお、11月3日に関しては、当初この日を、「文化の日」ではなく「憲法記念日」にしようという動きがあったそうですが、当時GHQの反対にあい、結局「憲法記念日」は憲法施行日の5月3日に設定され、11月3日は「文化の日」となったといわれています。占領中のこととはいえ、こうした事にまでGHQは口を出していたのですね。国に主権がないという事はどういう事なのか、その厳しさを改めて認識させられるエピソードです。

さて、「文化の日」には、全国各地で様々なイベントが開催されますが、皇居では、日本において文化の発展に功労のあった人々に文化勲章が授与されます。

今年の文化勲章受章者は、ノーベル生理学・医学賞に決まった京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥教授、映画監督の山田洋次氏など6名の方々です。その他、文化功労者には、俳優の松本幸四郎氏やアニメーション映画監督の宮崎駿氏ら15人が選ばれています。

私は、こうした多くの先達が様々な苦勞を乗り越え切り開いてきた道があったからこそ今の日本があるのだと、感謝の気持ちで一杯です。

戦後日本は、驚異的なスピードで経済発展を遂げ、経済大国の仲間入りをしました。多くの日本人は、経済発展に酔いしれ、お金が全てであるかのような錯覚に陥りました。しかし、それは錯覚に過ぎなかった事を、今思い知らされています。

私達は、これまで日本の発展を支えて来たものは何であったかを、もう一度しっかり考える必要があると思います。

日本の発展を支えて来たもの、そして今も支えているものは、日本の伝統や文化ではないでしょうか。

日本を日本たらしめているもの、そして、今や経済大国の地位から滑り落ちようとしている日本が、それでも世界の人々からなお信頼を失っていないのは、日本の伝統や文化の力であり、それによって育まれた日本人の力に他ならないと思っています。

勿論、いう迄もない事ですが、伝統や文化というものは、一朝一夕で出来上がるものではありません。長い年月をかけて、受け継ぎ育てていかなければなりません。その意味では、2006年（平成18年）に改正された教育基本法の前文において「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す」とした事は至極当然であり、むしろ遅きに失したというべきかもしれません。

大阪市の橋下市長が、大阪発祥の人形浄瑠璃文楽に対する補助金凍結を打ち出した事は大きな話題となりました。最終的には、文楽関係者との意見交換の結果凍結解除とはなりましたが、伝統文化の継承の難しさを改めて浮き彫りにしました。

景気が悪く、財政も極めて厳しい中で、伝統文化だけを特別扱いにして優遇する事が困難な事は明らかです。伝統文化といえども、それに胡坐をかいている事は許されません。

しかし同時に、伝統文化を守り、育てるという仕組みが必要な事も明らかです。伝統文化はガラス細工のようなもので、一度壊れてしまえば、元に戻すことは出来ません。伝統文化を粗末にする国は、亡びてしまうと思っています。伝統文化の喪失は、日本国民としてのアイデンティティの喪失に他ならず、グローバル化しつつある世界という海で漂泊するより他無くなるのではないかと危惧します。

今年の8月「古典の日に関する法律」が成立し、11月1日は「古典の日」と定められました。

道内では、「古典の日」のイベントではなく、北海道の市町村への通知遅れが話題となっているのはいささか寂し気がします。

ところで、「古典の日」が何故11月1日なのかというと、源氏物語の作者である紫式部の「紫式部日記」において、源氏物語に関する記述が初めて登場したのが寛弘5年のこの日（1008年11月1日）だからで、これを記念して、国民が文学や音楽、美術などの古典に親しむ環境整備を進めるというのが法律の目的となっています。

今から1千年以上も前に、世界最古の長編小説が成立し、しかも、それが現代にまで受け継がれ、読まれている。それこそが、日本の底力だと思います。

（塾頭：吉田 洋一）